

研究課題 (テーマ)	乳幼児を育てる親のソーシャルネットワーキングサービス (SNS) での情報行動		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科地域看護学講座	講師	大西 竜太
研究結果の概要			
本研究課題で以下の二つの論文を公表した。			
論文1			
<p>乳幼児の父母 433 名を対象に、オンライン (ウェブサイト・SNS・アプリ) とオフライン (家族・友人・専門家) からの子育て情報の利用状況をクラスタリング分析した結果、次の 4 タイプが抽出された。</p> <ul style="list-style-type: none">・ マルチソース型：オンライン・オフライン両面を幅広く活用・ オフライン中心型：対面での情報源を主に利用・ オンライン中心型：主にインターネット情報を活用・ 最小限利用型：情報収集自体が少ない <p>「マルチソース型」と「オフライン中心型」は社会的サポートを高く認知し、「マルチソース型」は育児自己効力感をもっとも高かった一方、「最小限利用型」は低かった。オンライン情報はオフラインを補完する役割があるものの、完全に置き換えるのは難しく、子育て支援者には、より多様な情報活用と社会的つながりづくりを促すことが求められる。</p>			
Onishi, R. (2024). Parental Information-Use Strategies in a Digital Parenting Environment and Their Associations With Parental Social Support and Self-Efficacy: Cross-Sectional Study. <i>JMIR Pediatrics and Parenting</i> , 7, e58757.			
論文2			
<p>本研究では、乳幼児の父母 429 名を対象に SNS 利用が精神的ストレスに及ぼす影響を検討し、孤独感や育児不安がその関係をどのように調整するかを分析した。その結果、SNS 利用は孤独感や育児不安が高いほど精神的ストレスを増大させる傾向があり、特に父親では両方の要因が、母親では育児不安がストレスとの関連を強めることが示唆された。つまり、SNS 利用の精神的影響には個人の心理状態や性別の違いが大きく作用するため、支援者はこれらを考慮しながら SNS 活用に関する助言やサポートを行うことが重要だと結論づけている。</p>			
Onishi, R. (2024). Parenting-Related Social Networking Site Use and Psychological Distress in Parents of Infants: Cross-sectional Study Exploring the Moderating Effects of Loneliness and Parenting Anxiety. <i>JMIR Pediatrics and Parenting</i> , 7(1), e59029.			
今後の展開			
他の研究結果についても随時公表を推進する。			